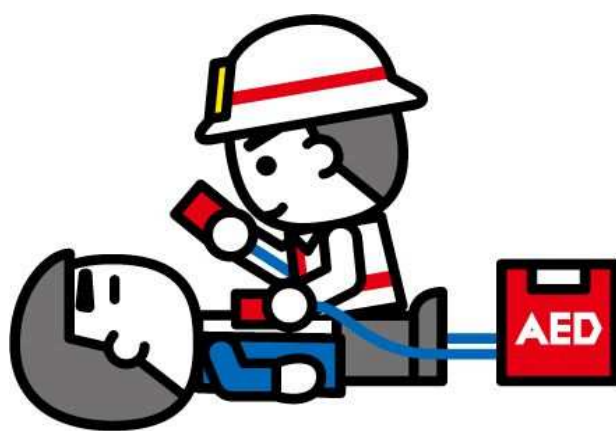


Ⅲ 救急・救助



余 白

第 1 救急活動の概況

1 救急業務実施体制

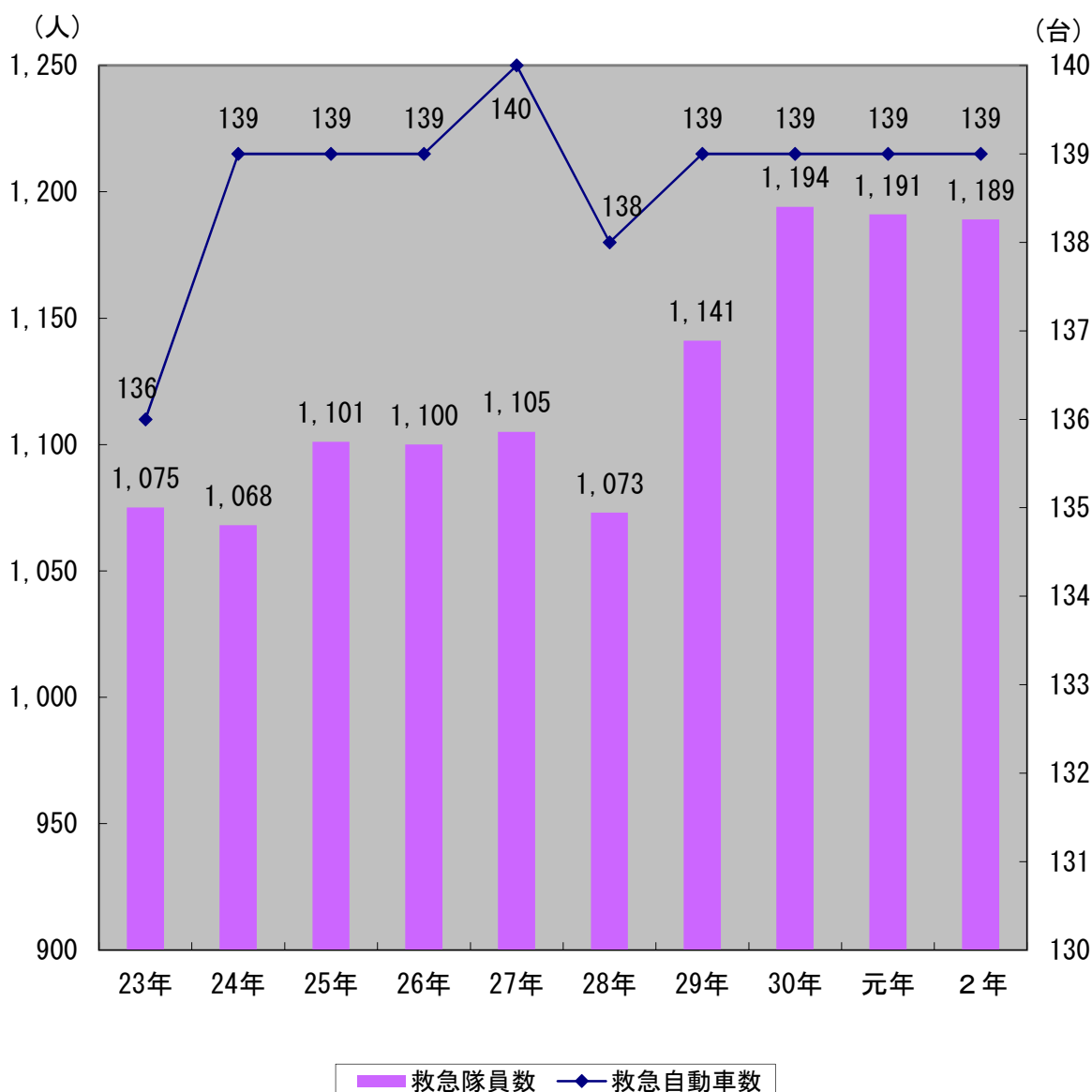
令和 2 年 4 月 1 日において救急業務を実施している市町村は41市町村で、県人口99.9%がカバーされている。

救急自動車の保有台数は139台、救急隊員は1,189人（専任292人、兼任897人）。また、救急告示医療機関は100機関、その他医療機関は1,327機関となっている。

平成 3 年 8 月にプレホスピタル・ケア充実の一環として、救急隊員の行う応急処置の範囲が拡大されるとともに、高度な応急処置を行うための新たな国家資格制度として救急救命士制度が導入され、救命率の向上を目指した救急業務の高度化が推進されている。

令和 2 年 4 月 1 日現在、県内全消防本部で救急救命士を運用（一部運用を含む）しており、資格者合計744名のうち640名が救急業務に従事している。

図 1 過去10年間の救急自動車及び救急隊員数の推移（各年4月1日現在）



2 救急業務実施状況

(1) 概要

令和元年中における救急出動件数は86,247件、搬送人員は78,088人で、いずれも過去最多となった。

また、昨年と比べると救急出動件数は1,311件（1.54%）の増加、搬送人員は552人（0.71%）の増加となっている。

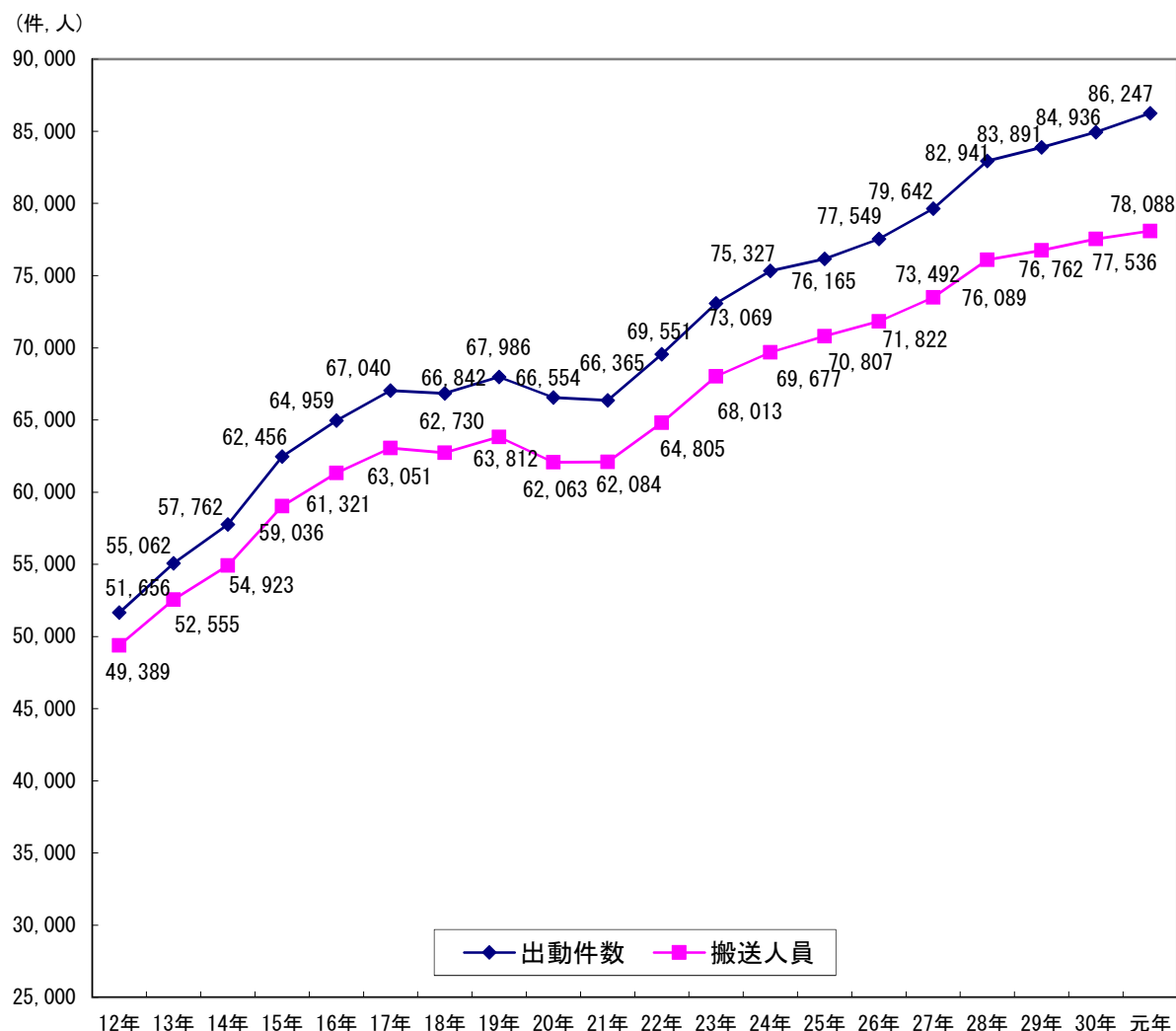
これは、1日平均236.3件（前年232.7件）、約6.1分に1回の割合で救急隊が出動し、また1日平均213.9人（前年212.4人）、約6.7分に1人の割合で搬送されていることとなる。

事故種別救急出動件数は、前年と同じく1位が急病で52,267件（全体の60.6%）、次いで、その他16,936件（同19.6%）、一般負傷が11,845件（同13.7%）となっている。

なお、搬送人員については、1位が急病で46,839人（全体の60.0%）、次いで、その他が15,359人（同19.7%）、一般負傷が10,989人（同14.1%）となり、上位3位までで全体の約93.8%を占めている。

過去20年間の県内救急活動の推移は下図のとおりであり、これまで増加の一途をたどっていた搬送人員・出動件数は、平成17年からほぼ横ばいとなっていたが、平成22年から再び増加に転じている。

図2 過去20年間の救急出動件数、搬送人員の推移



(2) 事故種別，傷病程度別及び年齢区分別搬送人員の状況

表1 事故種別出動件数及び搬送人員の状況

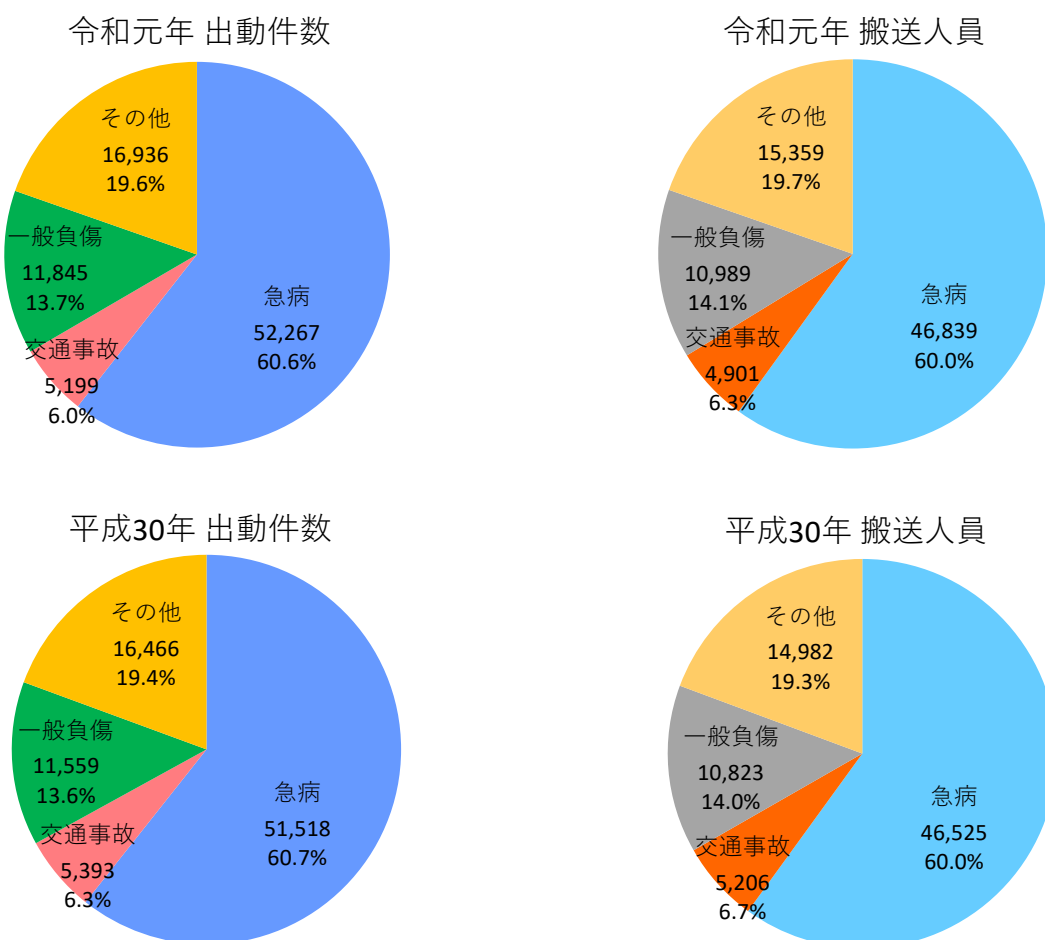
(単位：件，人，%)

区分	計	構成比	急病		交通事故		一般負傷		その他		
			急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比	
令和元年	出動件数	86,247	100.0	52,267	60.6	5,199	6.0	11,845	13.7	16,936	19.6
	搬送人員	78,088	100.0	46,839	60.0	4,901	6.3	10,989	14.1	15,359	19.7
平成30年	出動件数	84,936	100.0	51,518	60.7	5,393	6.3	11,559	13.6	16,466	19.4
	搬送人員	77,536	100.0	46,525	60.0	5,206	6.7	10,823	14.0	14,982	19.3
増減	出動件数	1,311	—	749	—	△ 194	—	286	—	470	—
	搬送人員	552	—	314	—	△ 305	—	166	—	377	—

(注) その他は，火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他（転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他）を示す。

図3

(単位：件，人，%)



ア 年齢別搬送人員

搬送人員の年齢別事故種別をみると、高齢者、成人、乳幼児では、急病が半数を超える高い率を占めており、少年では他の年齢に比べ、交通事故が比較的高い比率を占めている。

表2 年齢別搬送人員の状況

(単位：人，%)

区分	計	構成比	急病		交通事故		一般負傷		その他	
			構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比		
新生児	160	100.0	23	14.4	0	0.0	4	2.5	133	83.1
乳幼児	2,830	100.0	1916	67.7	116	4.1	549	19.4	249	8.8
少年	2,427	100.0	1,119	46.1	416	17.1	290	11.9	602	24.8
成人	21,747	100.0	12,660	58.2	2,748	12.6	1,864	8.6	4,475	20.6
高齢者	50,924	100.0	31,121	61.1	1,621	3.2	8,282	16.3	9,900	19.4
合計	78,088	100.0	46,839	60.0	4,901	6.3	10,989	14.1	15,359	19.7

(注) 新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

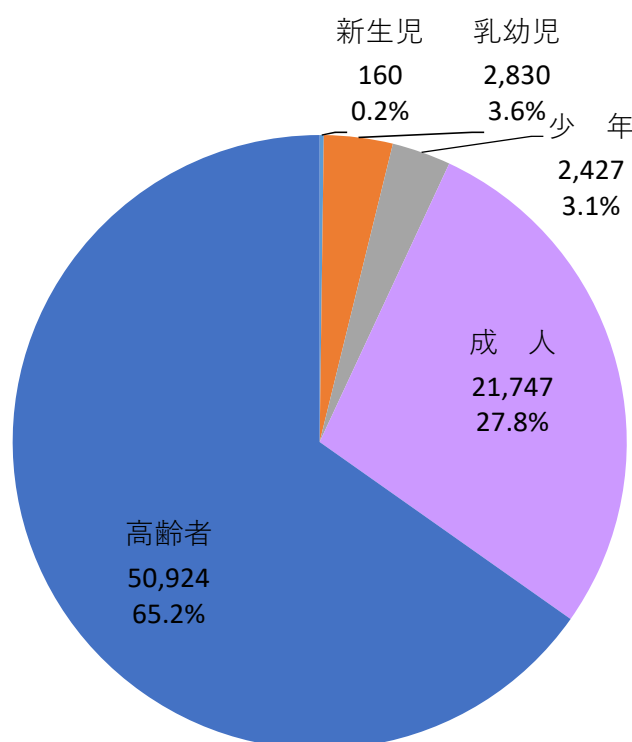
成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他（転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他）を示す。

(注) 構成比：搬送理由/年齢区分別搬送人員

図4



イ 傷病程度別搬送人員

令和元年中における搬送人員は78,088人であるが、これを傷病程度別にみると、軽症、中等症の両者で全体の88.3%を占めている。

表3 傷病程度別搬送人員の状況（事故種別）

（単位：人，％）

区分	合計		死亡	構成比	重症		中等症		軽症		その他	構成比
	合計	構成比			重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比		
火災	68	100.0			10	14.7	29	42.6	29	42.6		
自然災害	10	100.0			1	10.0	2	20.0	2	20.0	5	50.0
水難	56	100.0	11	19.6	9	16.1	20	35.7	16	28.6		
交通事故	4,901	100.0	20	0.4	299	6.1	1,567	32.0	3,014	61.5	1	0.0
労働災害	787	100.0	4	0.5	128	16.3	349	44.3	306	38.9		
運動競技	630	100.0			14	2.2	211	33.5	405	64.3		
一般負傷	10,989	100.0	52	0.5	1,162	10.6	5,316	48.4	4,459	40.6		
加害	212	100.0			8	3.8	59	27.8	145	68.4		
自損行為	475	100.0	45	9.5	76	16.0	247	52.0	107	22.5		
急病	46,839	100.0	568	1.2	3,965	8.5	25,541	54.5	16,762	35.8	3	0.0
その他	13,121	100.0	10	0.1	2,748	20.9	10,003	76.2	334	2.5	26	0.2
計	78,088	100.0	710	0.9	8,420	10.8	43,344	55.5	25,579	32.8	35	0.04

- ※ 死亡：初診時において、死亡が確認されたもの
- 重症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
- 中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
- 軽症：傷病の程度が入院を必要としないもの
- その他：医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの
- ※ 構成比：傷病程度人数/区分合計

また、年齢別にみると、新生児、成人、高齢者の場合は中等症の割合が高いのに対し、乳幼児、少年の場合は、軽症の比率が高くなっている。

表4 傷病程度別搬送人員の状況（年齢別区分）

（単位：人、％）

区分	合計		死亡	構成比	重症		中等症		軽症		その他	
	合計	構成比			重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比	その他	構成比
新生児	160	100.0	1	0.6	33	20.6	117	73.1	8	5.0	1	0.63
乳幼児	2,830	100.0	4	0.1	57	2.0	776	27.4	1,986	70.2	7	0.25
少年	2,427	100.0	3	0.1	75	3.1	797	32.8	1,550	63.9	2	0.08
成人	21,747	100.0	105	0.5	1,657	7.6	10,387	47.8	9,589	44.1	9	0.04
高齢者	50,924	100.0	597	1.2	6,598	13.0	31,267	61.4	12,446	24.4	16	0.03
計	78,088	100.0	710	0.9	8,420	10.8	43,344	55.5	25,579	32.8	35	0.04

(3) 現場到着所要時間及び収容所要時間の状況

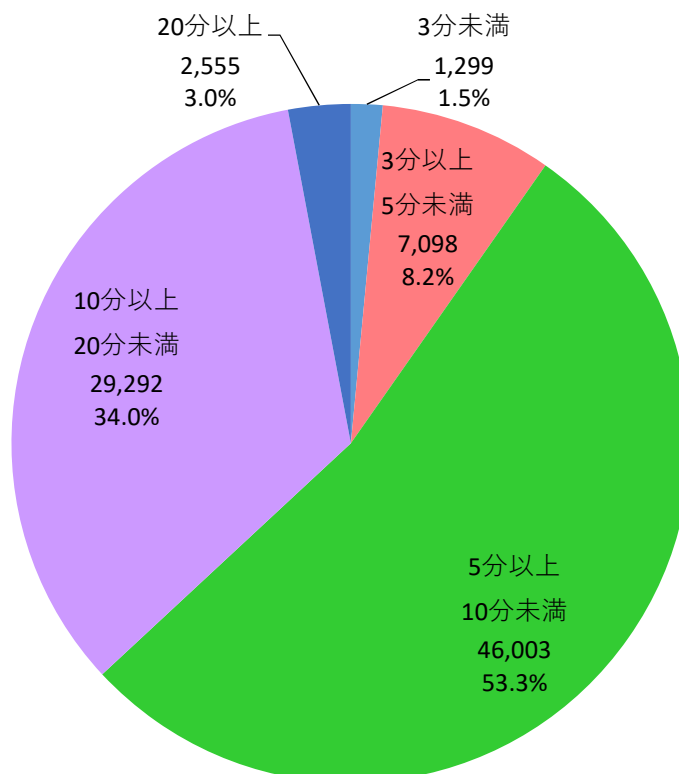
令和元年中の救急出動件数86,247件について現場到着所要時間別（救急事故の覚知から現場に到着するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると最も多いのは、5分以上～10分未満の46,003件で全体の53.3%を占めている。

表5 現場到着時間別出動件数

区分	計	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	現場到着平均 所要時間	
							県	全国
急病	52,267	631	3,085	27,720	19,355	1,476	9.4分	—
交通事故	5,199	66	304	2,611	1,913	305	10.0分	—
一般負傷	11,845	144	793	6,152	4,357	399	9.5分	—
その他	16,936	458	2,916	9,520	3,667	375	7.7分	—
計	86,247	1,299	7,098	46,003	29,292	2,555	9.1分	8.7分
構成比	100.0%	1.5%	8.2%	53.3%	34.0%	3.0%	—	—

図5



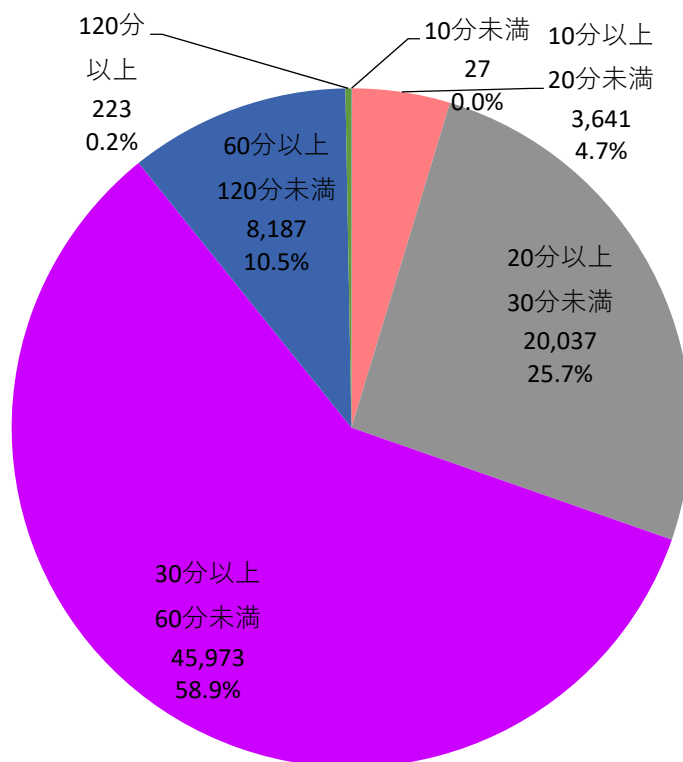
令和元年中の搬送人員78,088人について、収容所要時間別（救急事故の覚知から医療機関に収容するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると搬送人員のうち54,383人（69.6%）が収容に30分以上要している。

表6 収容所要時間搬送人員

区分	計	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	収容平均 所要時間	
								県	全国
急病	46,839	13	1,483	11,925	29,101	4,203	114	39.0分	—
交通事故	4,901		115	921	3,197	656	12	42.3分	—
一般負傷	10,989	6	366	2,527	6,879	1,175	36	40.6分	—
その他	15,359	8	1,677	4,664	6,796	2,153	61	38.9分	—
計	78,088	27	3,641	20,037	45,973	8,187	223	39.4分	39.3分
構成比	100.0%	0.0%	4.7%	25.7%	58.9%	10.5%	0.2%	—	—

図6



- (4) 事故種別転送回数別搬送人員の状況
 搬送人員78,088人のうち98.6%は、転送なしで収容されており、
 そのうち、転送回数1回の者が転送者全体の99.7%を占めている。

表7 転送回数別搬送人員の状況

区分	計	急病	交通事故	一般負傷	その他	
転送なし	77,002	46,114	4,845	10,791	15,252	
転送	1回	1,083	724	55	197	107
	2回	3	1	1	1	
	3回					
	4回					
	5回以上					
	小計 (A)	1,086	725	56	198	107
計 (B)	78,088	46,839	4,901	10,989	15,359	
転送率 (A)/(B) × 100	1.4	1.5	1.1	1.8	0.7	

転送理由についてみると、救急告示医療機関、非告示医療機関ともに処置困難が多く、次いで専門外の順になっている。

表8 医療機関転送理由の状況

(単位：件，%)

区分		合計	ベッド 満床	専門外	医師不在	手術中	処置困難	理由不明	その他
救急告示	構成比	100.0	0.6	21.1	1.2	1.2	60.8	2.4	12.7
		166	1	35	2	2	101	4	21
非告示	構成比	100.0	1.5	23.7		0.5	60.8	2.6	10.8
		194	3	46		1	118	5	21
計	構成比	100.0	1.1	22.5	0.6	0.8	60.8	2.5	11.7
		360	4	81	2	3	219	9	42

(5) 救急隊員の行った応急処置の状況

令和元年中に転送された人員のうち、救急隊員によって応急処置された人の事故種別、処置項目状況をみると、急病においては、血中酸素飽和度の測定が最も多く、次いで血圧測定が多い。

また、交通事故、一般負傷においても、血中酸素飽和度の測定、血圧測定の順で処置が多くなっている。

表9 救急隊員の行った応急処置の状況

(単位:人)

処置項目	事故種別	計	急病	交通事故	一般負傷	その他				
	応急処置対象搬送人員									
		77,662	46,789	4,886	10,959	15,028				
止	血	1,790	239	221	1,082	248				
固	定	5,943	297	2,986	1,974	686				
人	工	呼	吸	332	220	9	25	78		
心	マ	ツ	サ	ー	ジ	115	90	4	7	14
心	肺	蘇	生	1,470	1,155	46	134	135		
酸	素	吸	入	16,077	10,286	552	725	4,514		
気	道	確	保	2,286	1,755	65	193	273		
(再掲)気道確保のうち気管挿管		196	136	4	45	11				
保	温	7,055	4,701	305	927	1,122				
被	覆	3,800	213	866	2,246	475				
在	宅	療	法	継	続	230	205	1	12	12
ショックパンツによる血圧保持		2	1		1					
除	細	動	149	127	2	6	14			
薬	剤	投	与	271	214	3	28	26		
血	圧	測	定	73,902	44,404	4,753	10,480	14,265		
聴診器による心音・呼吸音等の聴取		23,302	16,115	2,043	2,286	2,858				
血中酸素飽和度の測定		75,928	45,624	4,808	10,762	14,734				
心	電	図	45,930	31,970	2,070	4,508	7,382			
静脈路確保(CPA前)		303	241	24	16	22				
静脈路確保(CPA後)		496	402	6	47	41				
血	糖	測	定	1,364	1,267	22	45	30		
ブ	ド	ウ	糖	投	与	87	86	1		
その他の応急処置		45,314	28,733	2,709	6,291	7,581				
計(再掲の気管挿管を除く)		306,146	188,345	21,496	41,795	54,510				

(注) 一人につき複数の応急処置を行うこともあるため、応急処置対象搬送人員と事故種別ごとの処置項目の計の数は一致しない。

(6) 高速道路における救急業務の状況

高速自動車国道における救急業務実施体制は、令和2年4月1日現在、九州縦貫自動車道のうち鹿児島インターチェンジから宮崎インターチェンジ間えびのインターチェンジから人吉インターチェンジ間を沿線3市1組合で、相互応援協定を締結し、上下線方式により、第1次出場をインターチェンジ所在の常備消防が担当する体制を整えている。

東九州自動車道31.7kmは沿線1市1組合が担当している。

県内においては、上り線が鹿児島インターチェンジから宮崎県えびのインターチェンジまでの69.8kmについて、第1次出場を担当し、救急業務を行っている。

なお、令和元年中の本県における救急活動は、下表のとおりである。

高速自動車道における救急活動状況

表10 九州自動車道

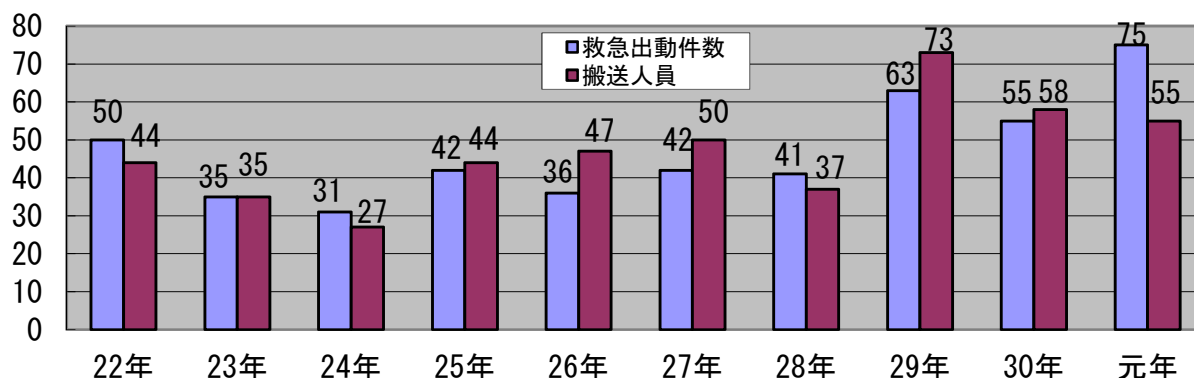
区 分	インターチェンジ名 (I C)	救急出動件数	搬送人員	救急告示	高速道路における救急活動開始年月日
				医療機関数	
鹿児島市消防局	鹿児島	6	2	24	昭和63.3.29
	鹿児島北	9	5	12	昭和52.11.15
	薩摩吉田	4	2		昭和48.12.13
始良市消防本部	始良	8	7	1	昭和48.12.13
	加治木	4	3	3	昭和48.12.13
霧島市消防局	溝辺鹿児島空港	2	1	2	平成17.11.7
	横川	5	3		平成17.11.7
伊佐湧水消防組合	栗野	6	10	3	昭和55.3.22
計	8 I C	44	33	45	

(注) 医療機関は、インターチェンジから半径5キロメートルの範囲にあるものである。

表11 東九州自動車道

区 分	インターチェンジ名 (I C)	救急出動件数	搬送人員	救急告示 医療機関数	高速道路における救急活動開始年月日
霧島市消防局	国分	6	6		平成14.3.2
	隼人東	3	3	3	平成12.3.4
大隅曾於地区消防組合	末吉財部	4	3		平成14.5.9
計	3 I C	13	12	3	

図7 最近10年間の高速自動車道における救急出動件数及び搬送人員



3 プレホスピタル・ケアの充実

プレホスピタル・ケア（救急現場及び搬送途上における応急処置）の一層の充実を図るために、平成3年8月に「救急隊員の行う応急処置等の基準」が改正され、これに伴い消防学校における新たな教育訓練（救急標準課程（平成16年4月1日より救急科に改称）及び救急Ⅱ課程）の修了者は、従来の応急処置に加えて9項目の処置を行うものとされ、救急救命士資格者は、医師の指示の下にさらに高度な応急処置（特定3項目）をも行うものとされた。

これに伴い、消防学校における救急科（救急標準課程）の修了者が計画的に養成されるとともに、救急救命士についても県内全消防本部において運用され、資格者、高規格救急自動車のいずれも着実に増加している。

また、救急救命士の質の向上による救命効果を高めるため、平成15年2月に消防機関、救急医療機関、医師会などにより構成される鹿児島県救急業務高度化協議会を、同年3月に6地域（薩摩、北薩、始良伊佐、大隅、熊毛、大島）に地域救急業務高度化協議会を設置し、平成15年4月から包括的除細動を実施し、平成16年7月から認められた医師の具体的指示下での気管挿管についても救急業務高度化協議会で承認された病院で、体制の整った消防本部から順次病院実習を実施し、397名が認定を受け19消防本部で実施が可能となっている。

平成18年4月から認められた医師の具体的指示下での薬剤投与について584名が認定・登録を受け、平成26年4月には「心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与」の実施が追加され、528名が認定・登録を受け、20消防本部で実施が可能となっている。

さらに、救急現場近くの一般市民による応急手当を促進するため、令和元年12月末までに応急手当指導員72,379名、応急手当普及員743名が県内消防本部により養成され、住民に対する応急手当講習会が次のとおり実施されている。

なお、平成16年12月に応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱の一部改正により、非医療従事者による自動体外式除細動器（AED）の使用が可能となったことから、AEDの内容を含めた救命講習の実施率が高くなっている。

令和元年中の住民に対する応急手当講習会実施状況

普通救命講習	991回	19,130名受講
上級救命講習	28回	332名受講
救急入門コース	418回	11,763名受講
その他の講習	1,428回	41,154名受講
計	2,865回	72,379名受講

表12 救急業務高度化の推進状況

各年4月1日現在

区分	令和2年	令和元年	対前年比較	
			増減数	増減率
救急救命士運用消防本部数	20	20		1.00
救急隊員数①	1,189	1,191	△2	1.00
うち救急救命士有資格者②	577	576	1	1.00
(②/①:%)	(48.5%)	(48.4%)		
(②のうち気管挿管認定者)	408	397	11	1.03
(②のうち薬剤投与認定者)	584	568	16	1.03
(②のうち処置拡大認定者)	528	424	104	1.25
うち救急科（救急標準課程）	524	513	11	1.02
(③/①:%)	(44.1%)	(43.1%)		
救急自動車数④	139	139		1.00
うち高規格車⑤	128	124	4	1.03
(⑤/④:%)	(92.1%)	(89.2%)		
救急隊数⑥	115	114	1	1.01
うち救急救命士運用隊⑦	114	114		1.00
(⑦/⑥:%)	(99.1%)	(100.0%)		

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は606名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が25名、救急自動車に搭乗しない資格者が138名で、有資格者は計744名いる。

表13 救急業務実施体制等の状況（消防本部設置市町村）

区分	人口 (人) R2年 国調	面積 (km ²)	救 急 体 制											
			救急車総数 (台)			救急 隊数	救急 救命 士運 用隊 数 ※2	救急隊員数 (人)						
			うち 高 規 格	うち 予 備 車	計			うち資格者・修了者				専任	兼任	
								救急 救命 士	標 準 課 程	救急 I 課 程	救急 II 課 程			
消防本部分別														
鹿児島市消防局	593,460	547.58	21	20	5	16	16	114	70	42		3	68	46
枕崎市消防本部	20,052	74.78	3	2	1	2	2	33	8	19		4		33
出水市消防本部	52,016	329.98	4	4		3	3	16	22	1			16	
垂水市消防本部	13,817	162.12	3	3	1	2	2	41	11	21		4		41
薩摩川内市消防局	92,459	682.92	9	6	1	7	7	48	31	14	1	2	15	33
日置市消防本部	47,166	253.01	4	4	1	3	3	44	15	26			15	29
霧島市消防局	123,205	603.16	8	8		8	8	47	46	1			46	1
いちき串木野市消防本部	27,511	112.29	3	3	1	2	2	26	15	10		1		26
南さつま市消防本部	32,894	283.59	5	5		5	5	74	18	48		3	23	51
始良市消防本部	76,405	231.25	5	5	1	4	4	39	22	7			39	
さつま町消防本部	20,272	303.9	3	3	1	2	2	30	13	18			8	22
指宿南九州消防組合	72,163	506.75	8	7		8	8	121	45	71		3		121
阿久根地区消防組合	29,008	250.47	6	5	2	4	4	53	24	27		4		53
伊佐湧水消防組合	33,591	536.85	6	6	1	5	5	69	24	37		5		69
大隅曾於地区消防組合	75,040	781.09	9	9	2	7	7	46	39	8			28	18
大隅肝属地区消防組合	135,103	1160.79	11	11	1	10	10	81	42	39			28	53
沖永良部与論地区広域事務組合	17,113	114.27	4	3	2	2	2	35	20	12		1		35
徳之島地区消防組合	21,824	248.03	4	3	1	6	6	48	18	21	7			48
熊毛地区消防組合	39,553	993.69	10	9	4	6	6	89	38	32		15		89
大島地区消防組合	65,409	877.95	13	12	1	13	12	135	56	70		6	6	129
計	1,588,061	9,054.47	139	128	26	115	114	1,189	※1 577	524	8	51	292	897

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は606名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が25名、救急自動車に搭乗しない資格者が138名で、有資格者は計744名いる。

※2 救急救命士運用隊数は、一部運用も含む。

[現場到着平均所要時間及び収容平均所要時間は令和元年中、左記以外は令和2年4月1日現在]

医 療 機 関 数												人口10万人当たりの救急医療機関数	現場到着平均所要時間(分)	収容平均所要時間(分)
合計	救急告示医療機関					その他の医療機関								
	国公立	公的	私 的		計	国公立	公的	私 的		計				
			病 院	診 療 所				病 院	診 療 所					
632	3	3	25	3	34	13	4	57	524	598	5.7	9.3	34.2	
19	1		3		4			4	11	15	19.9	4.7	31.5	
40	1				1	2		4	33	39	1.9	8.1	36.5	
7	1				1				6	6	7.2	7.3	43.1	
82		1	6		7	5		6	64	75	7.6	8.5	37.7	
38			2		2			7	29	36	4.2	8.7	42.2	
92	1		6		7			7	78	85	5.7	9.6	45.0	
28								6	22	28		7.2	37.7	
35	2		1		3	3		4	25	32	9.1	8.7	41.1	
63			4		4	3		5	51	59	5.2	8.2	40.6	
19			1		1			3	15	18	4.9	9.8	50.9	
65	1		3	1	5			11	49	60	6.9	9.9	43.0	
20			2		2	4		1	13	18	6.9	9.2	44.6	
28	1		2		3			4	21	25	8.9	9.5	45.9	
42			1	2	3			8	31	39	4.0	9.5	51.5	
107	2		6	2	10	11		9	77	97	7.4	9.5	41.5	
9			2		2				7	7	11.7	8.5	32.3	
8			2	1	3			1	4	5	13.7	9.7	44.3	
20	1		2		3	4		1	12	17	7.6	8.9	41.5	
73	1		4		5	12	1	4	51	68	7.6	10.0	40.1	
1,427	15	4	72	9	100	57	5	142	1,123	1,327	6.3	9.1	39.4	

表14 消防本部救急出動件数及び搬送人員

区分	事故種別救急出動件											
	計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	
消防本部名												
鹿児島市消防局	32,092	89	8	17	1,958	222	204	4,210	105	282	20,685	
枕崎市消防本部	1,157	1		2	52	15	5	154	2	7	642	
出水市消防本部	2,248	2		1	165	21	22	301	9	15	1,364	
垂水市消防本部	999			4	56	17	6	135	1	1	611	
薩摩川内市消防局	4,435	21	2	7	233	34	42	537	10	30	2,519	
日置市消防本部	2,311	6	1	2	136	30	25	316	3	17	1,271	
霧島市消防本部	6,114	8		7	485	62	62	788	15	65	3,513	
いちき串木野市消防本部	1,210	2		1	60	17	17	171	2	8	605	
南さつま市消防本部	1,833			5	75	19	44	280	1	11	1,045	
始良市消防本部	3,755	2	4	5	222	28	24	529	14	26	2,247	
さつま町消防本部	1,082	1		1	75	11	13	160	2	6	585	
指宿南九州消防組合	4,120			1	229	59	25	619	3	30	2,106	
阿久根地区消防組合	2,098	3		8	84	18	12	305	2	16	1,210	
伊佐湧水消防組合	1,975	4		3	127	13	5	306	1	19	974	
大隅曾於地区消防組合	4,362	4	1	3	326	101	27	592	14	58	2,696	
大隅肝属地区消防組合	7,450	3		5	569	87	60	978	19	67	4,514	
沖永良部与論地区 広域事務組合	787			4	27	8	5	149	1	6	468	
徳之島地区消防組合	1,669	1		1	69	13	11	274	16	14	1,099	
熊毛地区消防組合	2,373	1		7	76	25	13	395	12	12	1,536	
大島地区消防組合	4,177	2		22	175	20	22	646	24	25	2,577	
計	86,247	150	16	106	5,199	820	644	11,845	256	715	52,267	
時間別	0~2	3,631	11		2	85	9	472	38	46	2,645	
	2~4	2,884	7	1	2	77	4	333	37	36	2,190	
	4~6	2,915	3	2	6	104	9	342	20	22	2,246	
	6~8	5,483	10	2	10	404	22	792	12	77	3,892	
	8~10	10,387	12	4	15	649	153	46	1,637	7	53	5,987
	10~12	11,562	12	2	13	688	184	177	1,484	8	68	5,863
	12~14	10,232	21	2	20	619	138	126	1,221	12	65	5,390
	14~16	9,595	22		9	702	159	141	1,379	18	60	5,137
	16~18	9,366	15	1	15	840	92	82	1,387	15	90	5,050
	18~20	8,413	9		9	571	32	35	1,211	17	79	5,516
	20~22	6,797	16	1	2	292	14	28	913	30	73	4,784
22~24	4,982	12	1	3	168	4	4	674	42	46	3,567	

〔令和元年中〕

数				事故種別搬送人員											
その他				計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
転院搬送	医師搬送	資輸機材等送	その他												
3,697			615	27,869	28	4	6	1,830	202	200	3,869	91	203	17,752	3,684
265	3		9	1,105	1		1	53	15	5	150	2	5	612	261
331	3		14	2,085	2		1	159	21	20	282	7	11	1,254	328
165	1		2	981			1	60	17	6	135	1	1	593	167
934	9		57	3,968	3	1	3	219	34	40	497	6	17	2,248	900
500	1		3	2,200	5			132	30	23	306	2	13	1,191	498
1,074	26		9	5,705	5		2	450	61	61	745	14	40	3,260	1,067
326			1	1,143	1			54	16	16	155	2	5	569	325
343	4	1	5	1,753			2	75	19	44	276	1	6	987	343
652			2	3,503	2	5	1	216	28	24	489	11	18	2,061	648
220	8			1,003	1			73	10	11	152	2	6	528	220
1,039	9			3,901			1	232	56	25	588	3	15	1,946	1,035
433	1		6	2,026	3		7	93	18	11	297	2	10	1,151	434
520			3	1,918	4		2	133	13	5	304	1	14	923	519
539			1	4,079	3		2	280	97	27	556	10	38	2,530	536
1,103	3		42	6,915	3		4	534	87	61	909	19	42	4,148	1,108
109			10	739			3	26	8	5	142	1	5	441	108
109			62	1,594	1		1	68	13	10	266	15	10	1,100	110
265	13	2	16	2,256	2		4	77	24	13	374	7	6	1,480	269
587	2	2	73	3,345	4		15	137	18	23	497	15	10	2,065	561
13,211	83	5	930	78,088	68	10	56	4,901	787	630	10,989	212	475	46,839	13,121
227			96	3,219	4		2	80	9		418	27	31	2,419	229
132			65	2,577	4		2	66	4		302	32	29	2,004	134
102			57	2,609	1	1	3	93	9	2	309	18	13	2,055	105
195		1	63	4,995	4	1	5	369	21	3	741	9	48	3,604	190
1,732	13	2	77	9,508	2	4	6	594	146	45	1,552	6	35	5,407	1,711
2,949	20	1	93	10,514	2	2	3	642	177	173	1,389	8	36	5,158	2,924
2,531	19		68	9,281	8	1	10	574	133	127	1,144	12	40	4,713	2,519
1,859	21	1	87	8,774	19		6	697	152	135	1,295	12	42	4,564	1,852
1,684	10		85	8,513	6		10	811	88	80	1,294	11	61	4,481	1,671
860			74	7,598	4		5	545	31	33	1,121	16	56	4,932	855
575			69	6,032	7		2	274	13	28	836	25	48	4,232	567
365			96	4,468	7	1	2	156	4	4	588	36	36	3,270	364

表15 曜日別月別救急出動件数

(令和元年中)

事故種別 (件)	火災	自然 災害	水難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	そ の 他				計	
											転院 搬送	医師 搬送	資機 材等 輸送	その他		
区分																
曜 日 別	月	14	6	24	777	120	47	1,717	28	106	7,723	2,103	8		125	12,798
	火	30		13	771	149	40	1,570	27	98	7,548	2,073	15	4	136	12,474
	水	17	6	13	753	134	46	1,538	29	106	7,153	2,084	8		117	12,004
	木	25	1	9	735	123	59	1,575	27	90	7,439	1,989	16		119	12,207
	金	22	1	12	763	137	57	1,641	35	100	7,210	2,261	14		123	12,376
	土	21		17	804	110	150	1,863	47	107	7,498	1,690	17	1	130	12,455
	日	21	2	18	596	47	245	1,941	63	108	7,696	1,011	5		180	11,933
計	150	16	106	5,199	820	644	11,845	256	715	52,267	13,211	83	5	930	86,247	
月 別	1月	12		4	384	63	36	1040	28	53	5,346	1,163	10		75	8,214
	2月	16		9	344	57	32	849	24	53	4,002	1,031	5		71	6,493
	3月	18		6	457	60	59	1015	13	50	4,170	1,108	6	1	91	7,054
	4月	17		7	473	47	45	918	22	44	4,027	1,102	3		74	6,779
	5月	8		16	425	56	52	994	15	84	4,269	1101	6		63	7,089
	6月	11	1	6	419	58	50	877	16	62	4,025	1042	4		64	6,635
	7月	5	13	18	436	104	68	992	26	67	4,476	1120	10	1	91	7,427
	8月	5		19	464	100	82	1025	24	67	4,678	1098	13		97	7,672
	9月	5	2	9	430	89	96	988	22	64	4,317	1030	6		88	7,146
	10月	20		5	442	68	57	971	16	44	4,124	1119	7	2	71	6,946
	11月	17		2	430	64	41	1040	27	62	4,041	1104	7		56	6,891
	12月	16		5	495	54	26	1136	23	65	4,792	1,193	6	1	89	7,901

4 応急手当指導員等養成講習の状況

表16

【指導員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
令和元年中修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	16	7	2	7		1	3
	応急手当指導員講習Ⅱ	65	3		62			6
	応急手当指導員講習Ⅲ							
	消防長認定者	22	17	2		3	3	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	5	5					
	計	108	32	4	69	3	4	9
前年中までの修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	610	469	36	58	45	14	57
	応急手当指導員講習Ⅱ	1,195	536		659			433
	応急手当指導員講習Ⅲ	2	1			1		1
	消防長認定者	565	510	26	1	28	24	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	301	300	1			7	
	計	2,673	1,816	63	718	74	45	491
合計	2,781	1,848	67	787	77	49	500	

表17

【普及員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
令和元年中修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	112			25	1	86	8
	応急手当普及員講習Ⅱ							
	消防長認定者							
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者							
	計	112			25	1	86	8
前年中までの修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	607	1		102	8	496	55
	応急手当普及員講習Ⅱ	1		1				1
	消防長認定者	23					23	
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者							
	計	631	1	1	102	8	519	56
合計	743	1	1	127	9	605	64	

第2 救助活動の概況

1 救助業務実施体制

令和2年4月1日現在、救助隊は33隊配置されており、そのうち4隊が特別救助隊で、1隊が高度救助隊である。

また、402人の救助隊員のうち44.8%にあたる180人が専任救助隊員である。

表18 救助体制

(単位：隊、人)

区分	救助隊数			救助隊員数			
	省令	専任救助隊	兼任救助隊	計	専任救助隊員	兼任救助隊員	計
消防本部							
鹿児島市消防局	3	3		3	42		42
	4	2		2	28		28
	5	1		1	14		14
枕崎市消防本部	3		1	1		10	10
	4						
	5						
出水市消防本部	3	1		1	8		8
	4						
	5						
垂水市消防本部	3		1	1		6	6
	4						
	5						
薩摩川内市消防局	3	1		1	12		12
	4	1		1	12		12
	5						
日置市消防本部	3	1		1		12	12
	4						
	5						
霧島市消防局	3		2	2	2	9	11
	4						
	5						
いちき串木野市消防本部	3		1	1		8	8
	4						
	5						
南さつま市消防本部	3	1		1		11	11
	4						
	5						
始良市消防本部	3	1		1	10		10
	4						
	5						
さつま町消防本部	3		1	1		15	15
	4						
	5						
指宿南九州消防組合	3		2	2		20	20
	4						
	5						
阿久根地区消防組合	3		1	1		32	32
	4						
	5						
伊佐湧水消防組合	3		2	2		19	19
	4						
	5						
大隅曾於地区消防組合	3	2		2	20		20
	4						
	5						
大隅肝属地区消防組合	3	1	2	3	10	32	42
	4	1		1	10		10
	5						
沖永良部与論地区広域事務組合	3		1	1		15	15
	4						
	5						
徳之島地区消防組合	3		1	1		18	18
	4						
	5						
熊毛地区消防組合	3		1	1		15	15
	4						
	5						
大島地区消防組合	3	1		1	12		12
	4						
	5						
県計	3	12	16	28	116	222	338
	4	4		4	50		50
	5	1		1	14		14

※ 省令3は省令第3条の規定による救助隊、省令4は省令第4条の規定による救助隊（特別救助隊）、省令5は省令第5条の規定による救助隊（高度救助隊）

表19 救助隊が搭乗する車両

区分	救 助	はしご車	屈折 はしご車	ポンプ車	水槽付 ポンプ車	化学車	その他	計
	工 作 車							
消防本部								
鹿児島市消防局	3							3
枕崎市消防本部	1		1					2
出水市消防本部	1	1						2
垂水市消防本部							1	1
薩摩川内市消防局	1							1
日置市消防本部	1							1
霧島市消防局	2	1			1			4
いちき串木野市 消防本部	1	1						2
南さつま市消防本部	1	1					1	3
始良市消防本部	1							1
さつま町消防本部	1							1
指宿南九州消防組合	2	1						3
阿久根地区消防組合	1						1	2
伊佐湧水消防組合	2							2
大隅曾於地区消防組合	2	1			2		2	7
大隅肝属地区消防組合	1							1
沖永良部与論地区 広域事務組合	1							1
徳之島地区消防組合	1							1
熊毛地区消防組合	1							1
大島地区消防組合	1	1						2
県 計	25	7	1		3		5	41

2 救助業務実施状況

令和元年中における救助業務の実施状況は、救助出動件数787件、救助活動件数522件、救助人員921人となっている。（表22）

これを前年と比較すると出動件数は6件（0.8%）の減少、活動件数は16件（3.0%）の減少、救助人員は444人（93.1%）の増加となっている。

図8 過去20年間の救助業務実施状況の推移

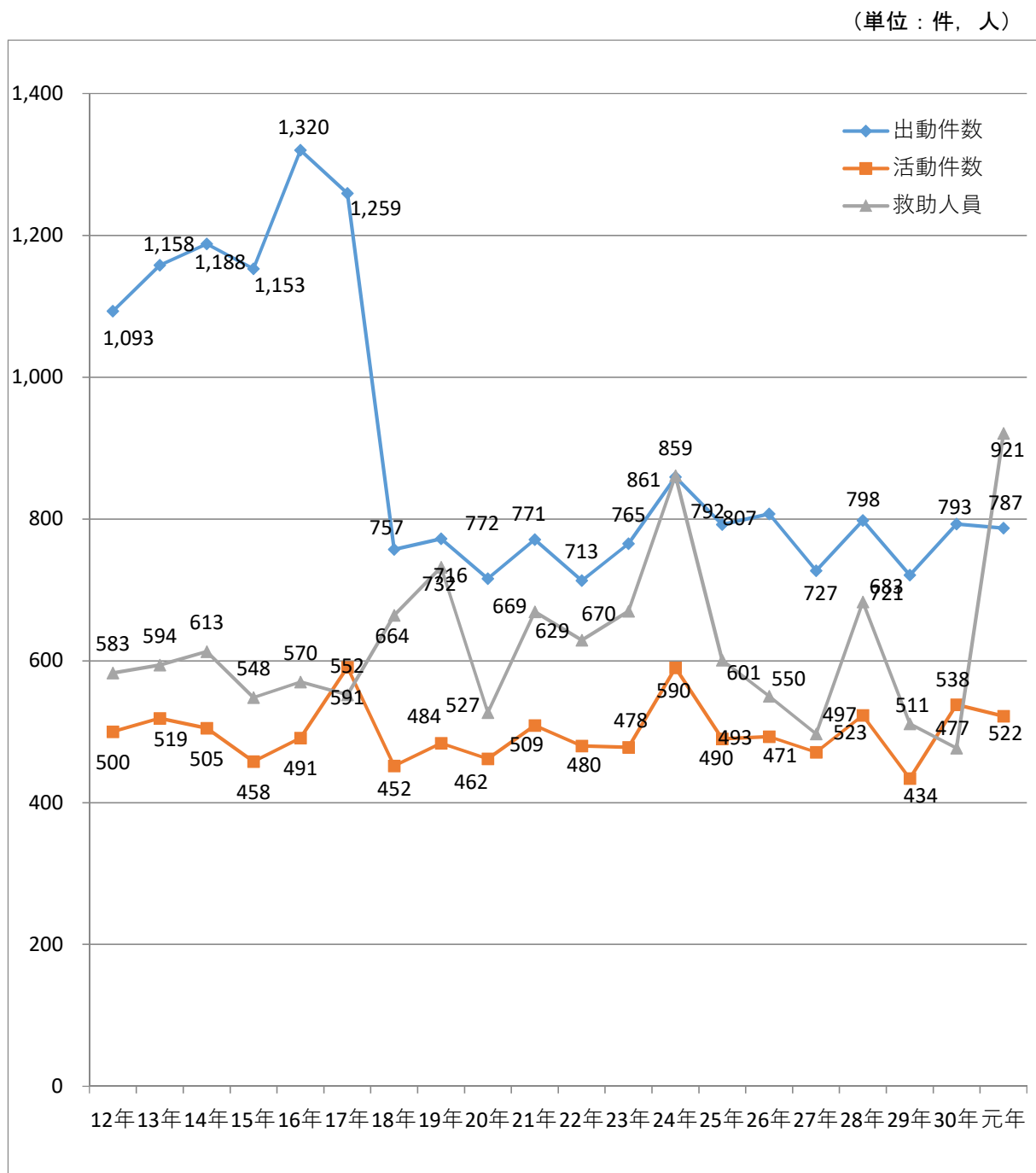


表20 事故種別出動件数及び出動人員の状況（令和元年）

（単位：件，人）

消防本部	事故種別	火	交	水	自風	事機	よ建	酸ガ	破	事そ	計
		災	通	難	然水	械	る物	欠ス	裂	の	
			事	事	災	に	事等	事及	事	他	
			故	故	害等	よ	故に	故び	故	の	
鹿児島市消防局		17	43	16	7	2	20	4		16	125
枕崎市消防本部			2	3						5	10
出水市消防本部		1	18	1		1	1			5	27
垂水市消防本部			7	2							9
薩摩川内市消防局		2	33	2	1	1	1			22	62
日置市消防本部			19	2	1	1				6	29
霧島市消防局			32	8	2	5				25	72
いちき串木野市消防本部			9		4	1	2			1	17
南さつま市消防本部		3	9	5	1	2	5			7	32
始良市消防本部			27	4			5			12	48
さつま町消防本部			13	2		2				3	20
指宿南九州消防組合		2	26	1		3	6			34	72
阿久根地区消防組合			10	2		1				6	19
伊佐湧水消防組合			20	1			1			4	26
大隅曾於地区消防組合			42	2	4	3				19	70
大隅肝属地区消防組合			33	7		7	9	1		12	69
沖永良部与論地区広域事務組合			5	1		2				1	9
徳之島地区消防組合				1						3	4
熊毛地区消防組合			6	3	1	2				21	33
大島地区消防組合			20	5		1				8	34
救助出動件数 計		25	374	68	21	34	50	5		210	787
救助出動人員	専任救助隊員	200	838	197	43	53	161	32		321	1,845
	兼任救助隊員	11	496	88	19	60	27			242	943
	消防隊員	572	1,181	337	96	101	112	26		637	3,062
	救急隊員	68	1,692	222	55	108	140	15		656	2,956
	消防団員	241		62						242	545
	計	1,092	4,207	906	213	322	440	73		2,098	9,351

表21 事故種別活動件数及び活動人員の状況（令和元年）

（単位：件，人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等による事故	ガス欠事故及び	破裂事故	その他事故	計
消防本部											
鹿児島市消防局	17	32	15	5	1	14	3			13	100
枕崎市消防本部		1	3							4	8
出水市消防本部	1	10	1							4	16
垂水市消防本部		5	2								7
薩摩川内市消防局	2	18	1	1	1	1				16	40
日置市消防本部		8	2	1	1					3	15
霧島市消防局		14	4	1	2					15	36
いちき串木野市消防本部		2		4		2					8
南さつま市消防本部	3	6	4	1	1	4				5	24
始良市消防本部		27	3			5				12	47
さつま町消防本部		8	2		1					2	13
指宿南九州消防組合	2	21			1	4				29	57
阿久根地区消防組合		4	1							3	8
伊佐湧水消防組合		15	1			1				3	20
大隅曾於地区消防組合		17	1	1	1					13	33
大隅肝属地区消防組合		12	3		4	8	1			9	37
沖永良部与論地区広域事務組合		3	1		2					1	7
徳之島地区消防組合			1							3	4
熊毛地区消防組合		6	3	1	1					21	32
大島地区消防組合		5	1		1					3	10
救助活動件数 計	25	214	49	15	17	39	4			159	522
救助活動人員	専任救助隊員	191	333	119	17	8	73	24		182	947
	兼任救助隊員	9	218	62	15	27	16			152	499
	消防隊員	435	624	206	63	44	62	19		465	1,918
	救急隊員	60	793	136	22	48	100	12		446	1,617
	消防団員	76		62						187	325
	計	771	1,968	585	117	127	251	55		1,432	5,306

（注）「救助活動件数」とは、救助出動件数のうち、実際に救助活動を行った件数をいう。

表22 事故種別救助人員の状況（令和元年）

（単位：人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等	ガス欠等	破裂事故	その他の事故	計
消防本部											
鹿児島市消防局	2	37	14	6	1	14	1			13	88
枕崎市消防本部		1	3							5	9
出水市消防本部	1	10	1							4	16
垂水市消防本部		24	8								32
薩摩川内市消防局	2	22	1	1	1	1				16	44
日置市消防本部		13	2	1	1					3	20
霧島市消防局		18	2	3	2					15	40
いちき串木野市消防本部		2		8		2					12
南さつま市消防本部		7	4		1	3				5	20
始良市消防本部		51	3			5				11	70
さつま町消防本部		10	2		1					2	15
指宿南九州消防組合		28			1	3				30	62
阿久根地区消防組合		6	4							3	13
伊佐湧水消防組合		15	1			1				3	20
大隅曾於地区消防組合		18	1	1	1					13	34
大隅肝属地区消防組合		13	3			4	8			9	37
冲永良部与論地区広域事務組合		5	1			2				1	9
徳之島地区消防組合			5							18	23
熊毛地区消防組合		7	3	314	1					21	346
大島地区消防組合		6	1		1					3	11
救助人員計	5	293	59	334	17	37	1			175	921

表23 救助活動のための機械器具等の保有状況（救助隊保有分）

一般 用 救 助 用 器 具	かぎ付きはしご	37	隊 員 保 護 用 器 具	耐電手袋	124
	三連はしご	29		耐電衣	55
	金属折りたたみはしご又はワイヤはしご	14		耐電ズボン	50
	空気式救助マット	19		耐電長靴	80
	救命索発射銃	30		防塵メガネ	141
	サバイバースリング又は救助用縛帯	87		携帯警報器	96
	平担架	15		防毒マスク	71
	重 量 物 排 除 用 器 具	油圧ジャッキ		34	器 除 染 具 用
油圧スプレッダー		13	陽圧式化学防護服	56	
可搬ウィンチ		31	耐熱服	21	
マンホール救助器具		26	放射線防護服	77	
救助用簡易起重機		3	特殊ヘルメット		
マット型空気ジャッキ		34	除染シャワー	2	
大型油圧スプレッダー		28	除染シャワー（4口以上）	2	
救助用支柱器具		20	除染剤散布器	3	
切 断 用 器 具	チェンブロック	10	水 難 救 助 用 器 具	潜水器具	60
	油圧切断機	19		救命胴衣	273
	エンジンカッター	30		水中投光器	30
	ガス溶断機	22		救命浮環	89
	チェンソー	33		浮標	14
	鉄線カッター	48		救命ボート	18
	空気鋸	30		船外機	14
	大型油圧切断機	27		水中スクーター	
破 壊 用 器 具	空気切断機	14	器 具	水中無線機	5
	コンクリート・鉄筋切断用チェンソー	10		水中時計	25
	万能斧	75		水中テレビカメラ	1
	ハンマー	35		登山器具	10
	携帯用コンクリート破壊器具	22		バスケット型担架	41
測 定 用 器 具	削岩機	23	用山岳救助器具	簡易画像探索機	9
	ハンマドリル	23	高 度 救 助 器 具	画像探索機	8
	生物剤検知器	3		地中音響探知機	1
	可燃性ガス測定器	24		熱画像直視装置	13
	有毒ガス測定器	28		夜間暗視装置	2
	酸素濃度測定器	15		電磁波探査装置	
放射線測定器	45	二酸化炭素探査装置			
呼 吸 保 護 用 器 具	化学剤検知器	2	そ の 他 の 救 助 用 器 具	水中探査装置	
	空気呼吸器	209		地震警報器	1
	空気補充用ボンベ	286		投光器	56
	酸素呼吸器	47		携帯投光器	52
	簡易呼吸器	13		携帯拡声器	50
	防塵マスク	102		携帯無線機	57
送 排 風 機	送排風機	33	応急処置用セット	22	
	エアラインマスク		車両移動器具	17	
			緩降機	23	
			ロープ登降機	56	
			救助用降下機	42	
		発電機	49		

第3 自衛隊災害派遣による離島急患搬送

離島における医療体制の実情により、現地では治療困難な患者で、一刻も早く専門病院での手当が必要である者に対して、昭和36年から自衛隊に対し、災害派遣要請（航空機搬送）を実施している。

搬送機関・活動範囲

海上自衛隊第1航空群 鹿屋航空分遣隊（鹿屋市）
十島村以北

陸上自衛隊第15旅団 第15ヘリコプター隊（沖縄県那覇市）
奄美大島以南

1 自衛隊災害派遣（離島急患搬送）の状況

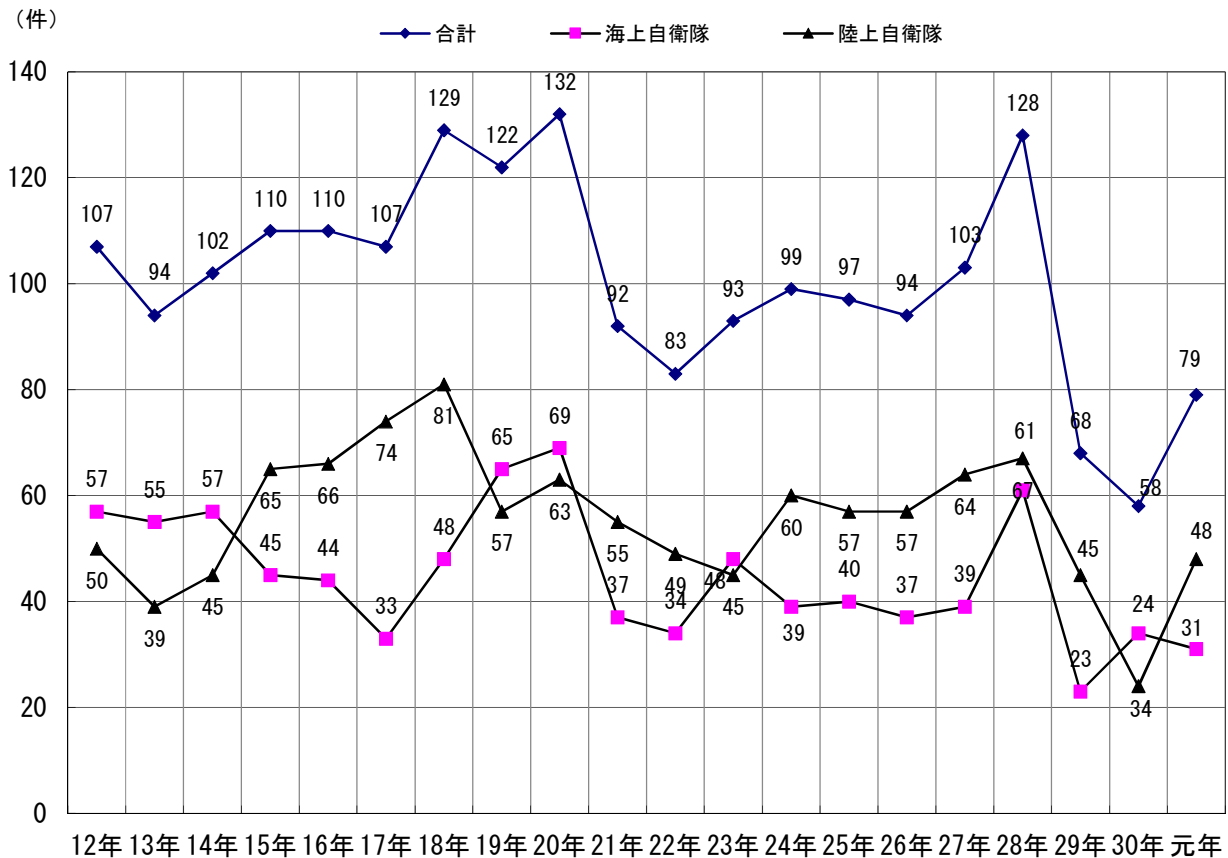
令和元年中における急患搬送出動件数は79件である。（図9）

出動件数79件を郡別にみると、大島郡（奄美市を含む）が51件（全体の64.6%）で、次に熊毛郡（西之表市を含む）が24件（同30.4%）、鹿児島郡が3件（同3.8%）となっている。（図10及び表24）

また、月別では、10月、11月及び12月の9件が最も多く、時間帯別（派遣要請時間）では20時から22時までが17件で最も多くなっている。（表25）

令和元年中の搬送人員を傷病別にみると、内臓疾患によるものが40人（全体の50.6%）で最も多く、次に脳疾患が21人（同26.6%）となっている。（表26及び表27）

図9 過去20年間の災害派遣（急患搬送）出動件数



（注）「海上自衛隊」には、教育航空集団を、「陸上自衛隊」には南西航空混成団をそれぞれ含んでいる。

図10 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）の出動件数（その1）

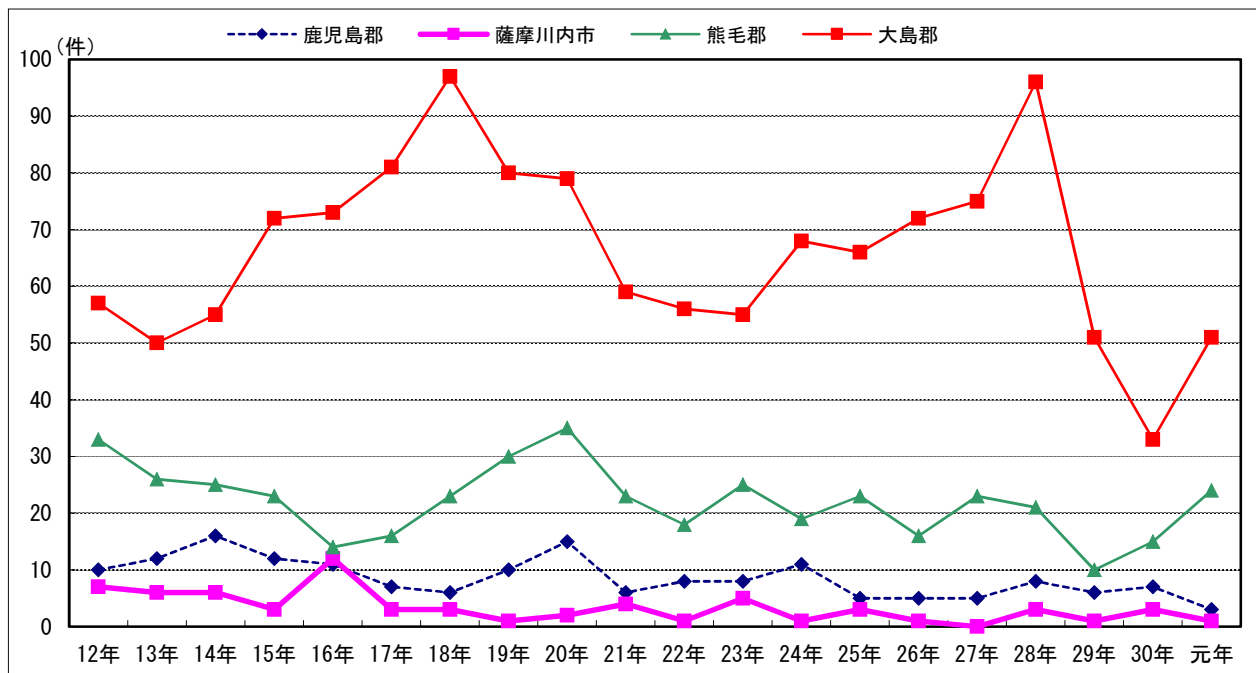


表24 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）出動件数（その2） (年中)

年	郡別	計	鹿児島郡	薩摩川内市	熊毛郡	大島郡	計のうち不搬送件数
平成 12年		107 (50)	10	7	33	57 (50)	鹿屋1件
13		94 (39)	12	6	26	50 (39)	鹿屋2件
14		102 (45)	16	6	25	55 (45)	鹿屋2件
15		110 (65)	12	3	23	72 (65)	鹿屋2件
16		110 (66)	11	12	14	73 (66)	
17		107 (74)	7	3	16	81 (74)	
18		129 (81)	6	3	23	97 (81)	
19		121 (56)	10	1	30	80 (56)	鹿屋1件
20		131 (64)	15 (1)	2	35	79 (63)	鹿屋2件, 沖縄2件
21		92 (55)	6	4	23	59 (55)	鹿屋1件
22		83 (49)	8	1	18	56 (49)	
23		93 (44)	8	5	25	55 (44)	鹿屋1件, 沖縄2件
24		99 (61)	11 (1)	1	19	68 (60)	鹿屋1件, 沖縄1件
25		97 (57)	5	3	23	66 (57)	沖縄1件
26		94 (57)	5	1	16	72 (57)	沖縄1件
27		103 (64)	5	0	23	75 (64)	沖縄1件
28		128 (67)	8	3	21	96 (67)	
29		68 (45)	6	1	10	51 (45)	沖縄1件
30		58 (24)	7	3	15	33 (24)	
元		79 (48)	3	1	24	51 (48)	
計		2,005 (1,111)	171 (2)	66	442	1326 (1109)	沖縄分構成比
構成比率		100.0%	8.5%	3.3%	22.0%	66.1%	(55.4%)

- (注) 1 () 内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。
 2 便宜上、熊毛郡には西之表市、大島郡には奄美市をそれぞれ含めている。
 3 平成20年及び24年の鹿児島郡には、各年1件ずつ、離島外からの搬送を含む。

余 白

表25 過去20年間の月別及び時間帯別災害派遣（離島急患搬送）出動件数

区分		年別	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
月別	1		12 (8)	8 (5)	5 (2)	5 (2)	10 (6)	9 (5)	11 (5)	8 (4)	21 (11)	12 (5)
	2		12 (6)	5 (3)	8 (5)	4 (4)	15 (10)	8 (8)	11 (8)	8 (3)	9 (4)	8 (8)
	3		4 (1)	8 (2)	8 (4)	13 (5)	10 (4)	10 (7)	9 (7)	16 (10)	15 (6)	4 (4)
	4		6 (3)	5 (2)	2 (1)	8 (5)	9 (5)	10 (7)	11 (7)	9 (6)	9 (3)	6 (4)
	5		9 (6)	6 (1)	11 (3)	11 (9)	7 (6)	11 (7)	7 (6)	4 (1)	9 (6)	9 (5)
	6		11 (6)	7 (5)	5 (4)	12 (5)	4 (3)	8 (6)	11 (5)	10 (4)	5 (3)	7 (6)
	7		7 (4)	6 (3)	13 (7)	9 (5)	7 (4)	7 (6)	11 (7)	2 (2)	7 (4)	6 (5)
	8		9 (4)	8 (2)	7 (4)	5 (3)	4 (2)	5 (5)	13 (7)	11 (6)	10 (5)	10 (5)
	9		7 (1)	10 (4)	14 (3)	8 (7)	15 (11)	8 (5)	8 (4)	7 (3)	4 (2)	8 (3)
	10		12 (4)	9 (4)	13 (5)	13 (5)	10 (7)	13 (10)	6 (5)	21 (8)	12 (4)	9 (5)
	11		12 (5)	17 (4)	8 (2)	11 (7)	11 (6)	8 (4)	17 (9)	13 (4)	18 (8)	6 (1)
	12		6 (2)	5 (4)	8 (5)	11 (8)	8 (2)	10 (4)	14 (11)	13 (6)	13 (7)	7 (4)
計			107 (50)	94 (39)	102 (45)	110 (65)	110 (66)	107 (74)	129 (81)	122 (57)	132 (63)	92 (55)
時間帯別	0~2		5 (1)	2 (1)	6	10 (6)	6 (3)	3 (3)	6 (3)	2 (1)	6 (1)	9 (3)
	2~4		5 (1)	5 (3)	9 (4)	2 (1)	2 (1)	4 (2)	3 (2)	2 (1)	4 (2)	2 (1)
	4~6		10 (8)	6 (1)	3 (1)	2	5 (4)	4 (2)	5 (3)	5 (2)	3 (2)	3 (1)
	6~8		4 (2)	2 (2)	3 (3)	3 (2)	6 (3)	10 (8)	5 (3)	7 (4)	3	2 (1)
	8~10		11 (9)	6 (4)	11 (6)	19 (16)	13 (9)	7 (5)	11 (5)	13 (4)	13 (4)	4 (2)
	10~12		9 (6)	12 (6)	12 (6)	21 (12)	21 (15)	14 (9)	21 (14)	19 (11)	12 (6)	13 (11)
	12~14		4 (3)	8 (5)	8 (4)	9 (7)	11 (6)	11 (10)	19 (13)	11 (7)	15 (11)	11 (7)
	14~16		8 (4)	8 (3)	8 (5)	6 (6)	12 (10)	8 (5)	5 (3)	10 (5)	18 (10)	9 (7)
	16~18		14 (5)	16 (4)	12 (4)	12 (6)	9 (3)	14 (9)	18 (15)	10 (3)	11 (8)	11 (5)
	18~20		17 (3)	8 (4)	16 (8)	5 (1)	11 (7)	9 (6)	13 (7)	21 (5)	11 (4)	10 (5)
	20~22		10 (2)	9 (3)	9 (4)	14 (5)	9 (3)	14 (8)	11 (8)	13 (8)	13 (5)	7 (5)
22~24		10 (6)	12 (3)	5	7 (3)	5 (2)	9 (7)	12 (5)	9 (6)	23 (10)	11 (7)	

(注) 1 ()内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。
 2 「時間帯」は、自衛隊への派遣要請時間である。

(年中)

22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	計
7 (4)	11 (3)	3 (2)	14 (6)	6 (3)	6 (4)	17 (10)	6 (5)	5 (3)	4 (1)	162 (81)
9 (7)	4 (4)	13 (8)	1 (1)	2 (1)	10 (6)	5 (3)	2 (2)	7 (2)	7 (4)	149 (92)
3 (2)	9 (4)	5 (3)	9 (6)	10 (6)	9 (8)	11 (7)	3 (2)	4 (2)	7 (5)	172 (96)
7 (3)	5 (1)	11 (5)	7 (3)	10 (8)	6 (3)	9 (3)	6 (5)	3 (1)	3 (3)	144 (78)
5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (2)	4 (4)	8 (4)	4 (1)	5 (1)	6 (5)	135 (79)
6 (4)	8 (1)	8 (4)	8 (4)	8 (5)	3 (2)	11 (5)	2 (1)	2	7 (6)	142 (77)
5 (3)	7 (6)	9 (6)	15 (7)	7 (5)	16 (11)	15 (10)	6 (2)	5 (4)	6 (4)	175 (107)
6 (4)	6 (2)	9 (7)	2 (1)	8 (7)	9 (4)	15 (5)	10 (7)	5 (2)	7 (6)	154 (79)
5 (4)	9 (5)	7 (5)	6 (5)	6 (2)	10 (4)	10 (8)	6 (4)	5 (4)	5 (2)	154 (84)
11 (1)	10 (7)	9 (4)	10 (7)	12 (8)	11 (6)	6 (5)	8 (7)	5 (2)	9 (5)	201 (106)
10 (4)	12 (4)	11 (8)	12 (8)	9 (5)	11 (6)	11 (2)	8 (5)	7 (1)	9 (4)	206 (89)
9 (9)	7 (4)	9 (4)	8 (5)	11 (5)	8 (6)	10 (5)	7 (4)	5 (2)	9 (3)	181 (94)
83 (49)	93 (45)	99 (60)	97 (57)	94 (57)	103 (64)	128 (67)	68 (45)	58 (24)	79 (48)	1975 (1062)
7 (6)	5	8 (5)	5 (4)	8 (5)	7 (6)	11 (5)	7 (4)	3 (1)	8 (4)	115 (58)
3	5 (2)	4 (2)	6 (3)	4 (1)	7 (2)	7 (6)		4 (2)	6 (2)	79 (36)
1 (1)	1	5 (2)	2 (1)	3 (2)		8 (3)	3 (1)	3	0 ()	71 (34)
1	1 (1)	5 (5)	3 (3)	5 (4)	2 (2)	5 (3)		2	0 ()	71 (48)
9 (6)	9 (4)	5 (5)	3 (3)	9 (6)	5 (4)	10 (6)	1 (1)	0	2 (2)	163 (105)
9 (4)	10 (8)	9 (6)	10 (9)	6 (3)	12 (8)	16 (7)	1	0	2 (2)	229 (140)
12 (6)	6 (2)	5 (2)	14 (9)	10 (8)	10 (6)	11 (8)	1 (1)	3 (1)	2 ()	183 (108)
11 (8)	5 (2)	7 (5)	5 (3)	6 (5)	9 (2)	8 (4)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	147 (84)
7 (5)	11 (8)	13 (8)	14 (8)	10 (3)	17 (11)	12 (7)	9 (6)	2 (1)	15 (8)	241 (121)
5 (2)	14 (3)	15 (9)	16 (6)	13 (9)	17 (12)	25 (11)	11 (9)	19 (10)	13 (9)	266 (128)
10 (6)	20 (12)	11 (6)	10 (4)	9 (6)	11 (8)	7 (2)	23 (15)	13 (6)	17 (8)	242 (118)
8 (5)	6 (3)	12 (5)	9 (4)	11 (5)	6 (3)	8 (5)	10 (6)	8 (2)	12 (11)	168 (82)

表26 令和元年中の市町村別搬送人員傷病別内訳

傷病別 市町村別		合 計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
			頭部	その他	頭部	その他						
鹿児島郡	三島村	1									1	
	十島村	2					2					
薩摩川内市		1								1		
熊毛郡 (西之表市含)	西之表市	6					4				2	
	中種子町	3					1				2	
	南種子町	2									2	
	屋久島町	13					5				7	1
大島郡 (奄美市含)	奄美市	5 (3)							1		4 (3)	
	龍郷町											
	大和村											
	宇検村											
	瀬戸内町	1									1	
	喜界町	8 (8)						1 (1)			6 (6)	1 (1)
	徳之島町	6 (6)					1 (1)				3 (3)	2 (2)
	天城町	3 (3)					2 (2)			1 (1)		
	伊仙町	3 (3)				1 (1)			1 (1)		1 (1)	
	和泊町	7 (7)				1 (1)	1 (1)		1 (1)		3 (3)	1 (1)
	知名町	9 (9)					4 (4)	1 (1)			4 (4)	
与論町	9 (9)				1 (1)	1 (1)		2 (2)	1 (1)	4 (4)		
計		79 (48)				3 (3)	21 (9)	2 (2)	5 (4)	3 (2)	40 (24)	5 (4)

(注1) ()内は、沖縄自衛隊搬送人員の内書きである。

(注2) 不搬送の傷病者は含まない。

表27 過去20年間の離島急患搬送人員及び傷病別内訳

(年中)

年別 傷病別	計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
		頭部	その他	頭部	その他						
12	106 (51)	3 (2)	1 (1)		2	30 (18)	3 (3)	12 (6)	7 (3)	45 (18)	3
13	92 (39)	1 (1)	2	2 (1)	5 (1)	20 (9)	2 (2)	4 (3)	5 (2)	41 (16)	10 (4)
14	102 (46)	1 (1)	4 (3)		4 (2)	15 (5)	7 (3)	5 (4)	13 (8)	48 (18)	5 (2)
15	110 (66)	2 (1)	2 (1)		4 (1)	30 (15)	3 (1)	12 (11)	10 (9)	38 (22)	9 (5)
16	111 (66)	1 (1)	1 (1)		1	23 (11)	2 (1)	13 (8)	20 (16)	47 (28)	3
17	103 (71)		1			21 (16)	4 (2)	21 (15)	5 (5)	46 (30)	5 (3)
18	126 (79)		4 (4)	1 (1)	2 (1)	24 (9)		29 (20)	11 (7)	51 (35)	4 (2)
19	117 (55)		1 (1)		4 (2)	19 (11)		21 (11)	15 (7)	47 (20)	10 (3)
20	131 (64)	1	1		3 (1)	29 (17)	2 (1)	23 (9)	18 (11)	45 (21)	9 (4)
21	93 (56)	1 (1)	2	2 (1)	1	19 (11)		16 (10)	10 (6)	37 (25)	5 (2)
22	83 (49)	2 (1)	1 (1)			17 (9)	4 (3)	14 (7)	2 (2)	30 (18)	13 (8)
23	94 (46)		1			21 (9)	1 (1)	22 (6)		36 (23)	13 (7)
24	101 (61)	1	5 (2)			18 (10)	2 (1)	13 (5)	5 (5)	46 (32)	11 (6)
25	96 (56)	1 (1)	1		3 (2)	12 (4)		21 (13)	1 (1)	38 (25)	19 (10)
26	93 (56)	2 (1)	6 (4)		3 (3)	7 (3)		17 (10)	6 (4)	39 (21)	13 (10)
27	104 (65)	4 (3)	4 (1)	3 (1)	3	13 (10)	4 (2)	13 (8)	1	49 (33)	10 (7)
28	128 (67)	2	1 (1)		2	24 (17)	3 (1)	17 (9)	4 (2)	48 (22)	27 (15)
29	68 (45)		3 (3)			17 (11)	1 (1)	2 (1)	9 (7)	26 (17)	10 (5)
30	58 (24)			1 (1)	1	6 (4)		7 (2)	2 (1)	30 (14)	11 (2)
元	79 (48)				3 (3)	21 (9)	2 (2)	5 (4)	3 (2)	40 (24)	5 (4)

(注) ・本表は、鹿屋の海上自衛隊第1航空群及び沖縄の陸上自衛隊第15旅団（内書き）が搬送した人員である。
 ・不搬送の傷病者は含まない。

第4 消防・防災ヘリコプターの活動

1 消防・防災ヘリコプターの導入

県では、大規模災害時における広範な消防防災活動を行うほか、急患搬送、災害危険箇所の調査点検などに幅広く活用するとともに、災害時の被害状況をよりの確かかつ迅速に把握するため、消防・防災ヘリコプター「さつま」を導入し、平成10年4月1日、運航拠点となる枕崎空港（現枕崎ヘリポート）に防災航空センターを設置するとともに枕崎市、南さつま市、指宿南九州の3消防本部から派遣された消防職員6名で編成する鹿児島県防災航空隊を発足させた。

平成30年12月19日に、経年劣化による不具合の発生を防止し、更なる安定的な運航を図ることを目的とし、新たな機材への更新を行い、令和元年5月11日から運航を開始した。

なお、令和2年4月1日から令和5年3月31日まで、熊毛地区消防組合より派遣された消防職員1名を加え、航空隊7名体制となっている。

2 消防・防災ヘリコプターの活動内容

消防・防災ヘリコプターは以下の活動を行うこととしている。

(1) 災害応急対策活動

ア 被災状況等の調査及び情報収集活動

イ 食料、衣料その他の生活必需品及び復旧資材等の救援物資、人員等の搬送

ウ 災害に関する情報、警報等の伝達等広報宣伝活動

エ その他、災害応急対策上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

(2) 救急活動

ア 山村、離島等からの救急患者の搬送

イ 傷病者発生地への医師搬送及び医療機材等の搬送

ウ 高度医療機関のない地域からの傷病者の病院搬送

エ 消防・防災ヘリの積極的活用としての本土内搬送

オ その他、救急活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

(3) 火災防御活動

ア 林野火災等における空中からの消火活動

イ 被災状況調査及び情報収集活動

ウ 消防隊員、消防資機材等の搬送

エ その他、火災防御活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

(4) 救助活動

ア 河川、海等での水難事故、山岳遭難事故等における捜索または救助

イ 高層建築物火災における救助

ウ 山崩れ等の被害により、陸上から接近できない被災者等の救助

エ 高速道路及び自動車専用道路での事故救助

オ その他、救助活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

(5) 広域航空消防防災応援活動

表28 消防・防災ヘリコプター「さつま」の諸元・性能

		～令和元年5月11日(旧機体)	令和元年5月11日～(新機体)
型 式		ベル式412EP型	レオナルド式AW139型
定 員		13名(増槽タンク非装着時15名)	14名(前席2名+客席12名)
最 大 全 装 備 重 量		5,398kg	7,000kg
空 虚 重 量		3,820kg	4,579kg
有 効 搭 載 量		1,578kg	2,421kg
航 続 距 離		720km	1,250km
最 大 巡 航 速 度		259km/h	310km/h
限 界 高 度		6,096m	6,096m
全 長		17.1m	16.62m
全 幅		2.9m	4.22m
全 高		4.6m	4.98m
消 火 用 水 積 載 量		1,400ℓ	1,800ℓ

3 消防・防災ヘリコプターの運航状況（ベル412EP型，レオナルドAW139型）
 令和元年中における運航件数は253件となった。
 過去10年間の推移は下図のとおりであり，救急活動，山岳や海上での捜索，
 救助活動などの緊急運航や各種防災訓練を行った。

図11 過去10年間の活動状況

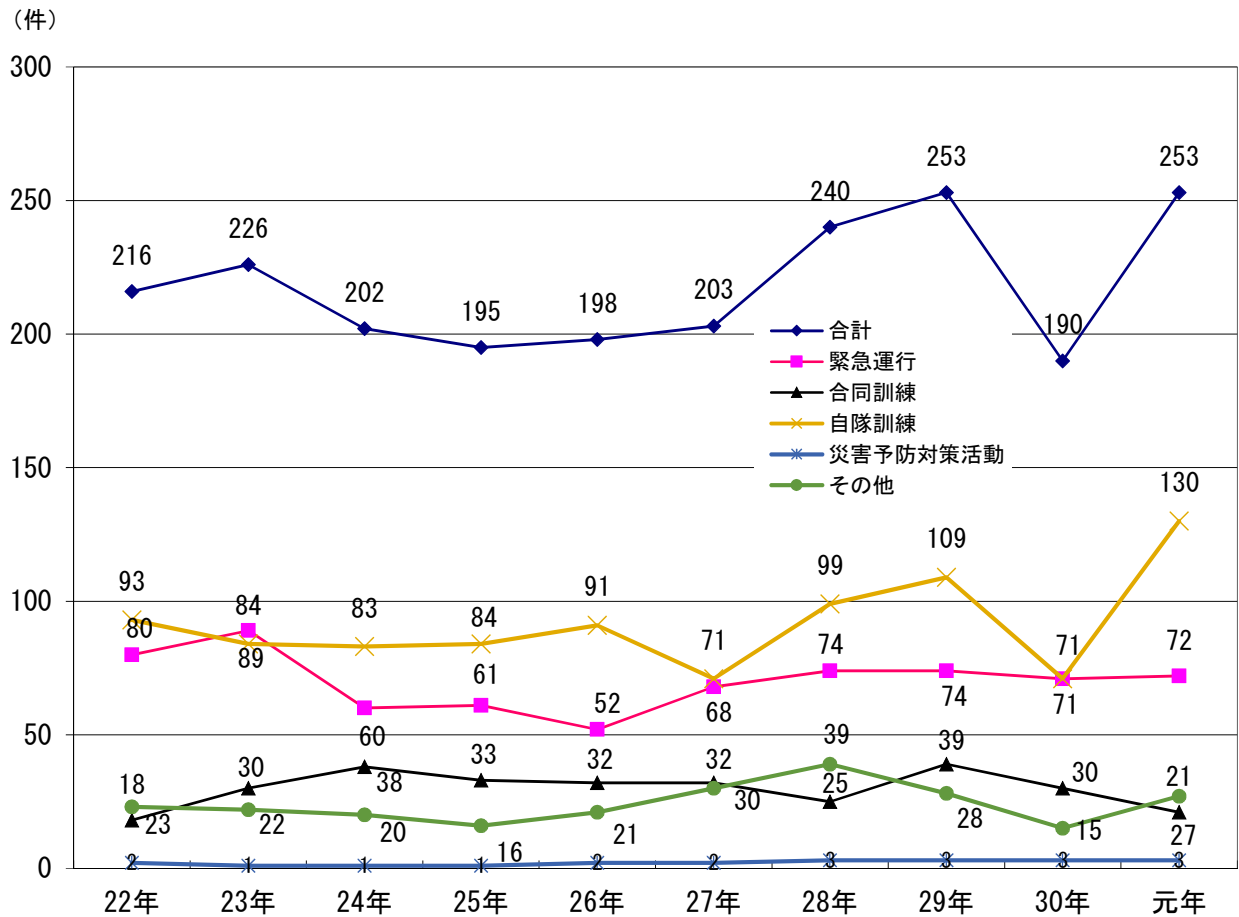


表29 消防・防災ヘリコプターの運航状況

(令和元年)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	総計	
緊急運航	災害応急対策活動	件数					1		2					3	72件 85時間15分	
		時間					1:30		2:35					4:05		
	救急活動	件数	3	2	4	10	1	5	4	2	4	2				37
		時間	2:15	0:40	5:20	9:45	1:25	4:45	3:40	5:10	3:20	1:40				38:00
	火災防 御活動	件数	1			1										2
		時間	1:35			1:00										2:35
	救助活動	件数	7	2	1	7	1			1	9					28
		時間	9:10	1:10	2:00	10:40	1:35			1:40	12:35					38:50
	広域応援	件数							2							2
		時間							1:45							1:45
災害予防活動	件数	1				2								3	3件 5時間25分	
	時間	2:10				3:15								5:25		
合同訓練	他県広域関係	件数													21件 29時間00分	
		時間														
	県市町村関係	件数	1	2	2	3	2		2	1	7	1		21		
		時間	0:25	2:50	2:15	3:25	2:10		4:50	0:50	11:25	0:50		29:00		
	合同訓練 事前訓練	件数														
		時間														
自隊訓練	件数	22	15	23	21	17	8	10	8	6				130	130件 142時間40分	
	時間	23:40	16:25	34:05	21:25	15:05	7:30	9:00	8:35	6:55				142:40		
その他	件数	1	5	4				3	10		4			27	27件 48時間45分	
	時間	0:20	16:00	6:50				3:50	15:40		6:05			48:45		
合計	件数	36	26	34	42	24	13	23	22	26	7			253	253件 311時間05分	
	時間	39:35	37:05	50:30	46:15	25:00	12:15	25:40	31:55	34:15	8:35			311:05		

表30 消防・防災ヘリコプターの活動状況（令和元年中）

(1) 災害応急対策活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	5/19		屋久島町	1:30
2	1	7/4		曾於市	1:20
3	1	7/4		鹿屋市	1:15
3件 3回 4時間05分					

(2) 救急活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	搬送人員	時 間
1	1	1/10		鹿屋市		0:25
2	1	1/10		鹿屋市	1	0:30
3	1	1/13		屋久島町	1	1:20
4	1	2/1		南九州市	1	0:10
5	1	2/5		鹿屋市	1	0:30
6	1	3/6		屋久島町	1	0:20
7	1	3/18		屋久島町	1	1:25
8	1	3/27		西之表市	1	1:15
9	1	3/30		西之表市	1	1:25
10	1	4/6		屋久島町	1	1:20
11	1	4/8		十島村（諏訪之瀬島）	1	1:10
12	1	4/8		十島村（諏訪之瀬島）	1	1:25
13	1	4/11		屋久島町	1	1:25
14	1	4/18		指宿市	1	0:15
15	1	4/22		屋久島町	1	1:25
16	1	4/26		鹿屋市	2	0:30
17	1	4/26		鹿屋市	1	0:35
18	1	4/28		指宿市	1	0:15
19	1	4/30		屋久島町	1	1:25
20	1	5/2		西之表市	1	1:25
21	1	6/12		西之表市	2	0:35
22	1	6/12		西之表市	1	0:40
23	1	6/17		西之表市	1	1:10
24	1	6/19		屋久島町	1	1:15
25	1	6/21		西之表市	1	1:05
26	1	7/18		屋久島町	1	1:15
27	1	7/22		西之表市	2	0:40
28	1	7/22		西之表市	1	0:35
29	1	7/25		屋久島町	1	1:10
30	1	8/12		奄美市	2	2:55
31	1	8/16		鹿児島市	1	2:15
32	1	9/6		西之表市	1	1:10
33	1	9/15		鹿屋市	1	0:30
34	1	9/25		屋久島町	1	0:35
35	1	9/28		屋久島町	1	1:05
36	1	10/2		西之表市	1	1:00
37	1	10/2		西之表市	1	0:40
37件 37回 37時間05分						

(3) 火災防御活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	1/24		伊佐市	1:35
2	2	4/21		始良市	1:00
2件 2回 2時間35分					

(4) 救助活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	1/2		志布志市(水難救助)	2:25
2	1	1/28		南さつま市(水難捜索)	1:05
3	1	1/28		南さつま市(水難捜索)	1:05
4	1	1/29		南さつま市(水難捜索)	1:05
5	1	1/29		南さつま市(水難捜索)	1:05
6	1	1/30		南さつま市(水難捜索)	1:10
7	1	1/30		南さつま市(水難救助)	1:15
8	1	2/1		指宿市(山岳救助)	0:20
9	1	2/5		鹿屋市(山岳救助)	0:50
10	1	3/13		屋久島町(山岳救助)	2:00
11	1	4/11		屋久島町(水難捜索)	3:25
12	1	4/11		屋久島町(水難救助)	2:15
13	1	4/12		屋久島町(水難捜索)	3:20
14	1	4/18		指宿市(山岳救助)	0:30
15	1	4/18		指宿市(山岳救助)	0:35
16	1	4/28		指宿市(山岳救助)	0:25
17	1	4/28		指宿市(山岳救助)	0:10
18	1	5/17		霧島市(山岳救助)	1:35
19	1	8/25		屋久島町(山岳救助)	1:40
20	1	9/10		屋久島町(山岳救助)	1:40
21	1	9/15		鹿屋市(水難捜索)	0:40
22	1	9/15		鹿屋市(水難救助)	0:35
23	1	9/15		鹿屋市(水難捜索)	1:40
24	1	9/16		鹿屋市(水難捜索)	1:45
25	1	9/16		鹿屋市(水難捜索)	1:45
26	1	9/17		鹿屋市(水難捜索)	1:40
27	1	9/17		鹿屋市(水難捜索)	1:40
28	1	9/25		屋久島町(山岳救助)	1:10
28件 28回 38時間50分					

(5) 広域航空消防防災応援活動

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	7/5		宮崎県 (救助)	1:00
2	1	7/5		宮崎県 (救助)	0:45
2 件 2 回 1 時間 4 5 分					

(6) 各種防災訓練等への参加等

件数	回数	月 日	訓練内容	訓練名及び実施場所	時 間
1	1	1/6	航空担架救助	枕崎市消防出初め式	0:25
2	2	2/9	要員搬送・急患搬送	原子力防災訓練	1:30
3	1	2/20	ドロップタンク消火訓練	大隅曾於地区消防組合林野火災防ぎょ訓練	1:20
4	1	3/4	ドロップタンク消火訓練	鹿児島市消防局山林火災訓練	1:05
5	1	3/9	隊員投入訓練	出水市消防本部との合同訓練	1:10
6	1	4/21	救出救助訓練	肝付町総合防災訓練	1:00
7	1	4/25	ヘリテレ映像伝達訓練	鹿児島市消防局映像伝達訓練	1:15
8	1	4/28	航空機集結訓練	エアーメモリアル	1:10
9	1	5/8	桜島噴火口等上空視察訓練	鹿児島市防災点検	1:00
10	1	5/23	エバック誘導有り救助	霧島市総合防災訓練	1:10
11	1	7/7	隊員投入・SVカット救助	龍郷町防災訓練	3:50
12	1	7/18	隊員投入・航空担架救助	鹿児島市消防局高度救助隊連携訓練	1:00
13	1	8/18	航空担架救助	日置市総合防災訓練	0:50
14	1	9/1	SV・エバック誘導無し救助	指宿市総合防災訓練	1:05
15	1	9/10	ドロップタンク消火訓練	大隅肝属地区消防組合火災防ぎょ訓練	0:55
16	1	9/12	エバック誘導無し救助	鹿児島市消防局南消防署救助救出訓練	0:45
17	1	9/19	隊員投入・航空担架救助	さつま町消防本部救助救出訓練	1:55
18	1	9/20	エバック誘導有り救助	始良市消防本部救助救出訓練	1:05
19	1	9/26	SVカット・航空担架救助	徳之島地区消防組合救助救出訓練	4:30
20	1	6/27	エバック誘導無し・水難救助	いちき串木野市消防本部救助救出訓練	1:10
21	1	10/4	隊員投入・エバック誘導無し救助	指宿南九州消防組合救助救出訓練	0:50
2 1 件 2 2 回 2 9 時間 0 0 分					

余 白